



片柳中学校だより

片 柳

第10号 令和8年1月8日発行
さいたま市立片柳中学校
さいたま市見沼区大字御蔵551
TEL048-683-3173

<学校教育目標> 夢をはぐくむ学校 ○自ら学ぶ生徒 ○心豊かな生徒 ○心身を鍛える生徒

希望を胸に、実り多き一年へ

校長 佐久間 貴宏

あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

2026年は「丙午（ひのえうま）」の年です。丙は明るく力強い『陽の火』、午もまた『火の気』を表し、火の勢いが重なる年として、古くから活発さや前向きなエネルギーを象徴すると言われてきました。迷信的な側面は時代とともに薄れつつありますが、物事に取り組む意欲や新たな挑戦を後押ししてくれる一年として、前向きに捉えることができるでしょう。新年を迎えるにあたり、皆さまのご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。本校としても、この丙午の勢いを、生徒一人ひとりが一年の学びを積み重ねていく力へとつなげていきたいと考えております。

しかしながら、勢いだけでは継続的な成長には結びつきません。大切にしたいのは『凡事徹底』、すなわち当たり前のことを当たり前に、確実に行う習慣です。授業の準備、話を聞く姿勢、提出物の期限を守ること、そして互いを思いやる行動など、日常の一つひとつが学力の向上や人間性の育成につながります。こうした小さな積み重ねが、やがて大きな成長として実を結ぶと信じています。特に3年生は入試を目前に控えた大切な時期です。授業の時間、一日一日の家庭学習の時間を大切に、スマホやゲームといった誘惑に流されず、自分の未来を見据えて努力を続けてください。努力の積み重ねは、必ず皆さんの力になります。

新しい年を迎えた世界では、国や地域によってさまざまな表情が見られました。華やかな花火や光の演出で新年を祝った地域がある一方で、紛争が続く地域や災害に見舞われた地域では、厳しい生活の中で「どうか平和な一年になりますように」と願う声が強くなっています。こうした国内外の出来事を通して改めて感じるのは、「平和の大切さ」です。

12月16日に開催した人権集会では、長崎県で生まれ育った講演者の方にご来校いただき、原爆投下後の町の様子や、その後の生活についてお話しいただきました。平和への強い願い、そして今ある平和の価値を次の世代に伝えたいという思いが胸に響く、心に残るご講演でした。世界が安定し、人々がお互いを思いやりながら生きられる社会であってほしいという願いは、遠い国の出来事や大きな政治だけでなく、私たち一人ひとりの日々の行動から育てていくことができるのではないのでしょうか。

本校が大切にしている「言語能力」「コミュニケーション能力・他者と協働する力」「自己調整力」といった学びは、平和な社会をつくる基盤ともなる力です。新しい年も、生徒一人ひとりが互いを尊重し、話し合い、ともに学び合う姿を大切にしながら、学校としての教育をさらに充実させていきたいと考えております。2026年が、生徒・保護者・地域の皆さまにとって、実り多く、希望に満ちた一年となることを心より期待しております。